

令和5年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える力が身につけている。
- 原因と結果など、情報と情報との関係について理解する力が身につけている。
- 漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。(「以外」「意外」等の同音異義語)
- 文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つけることに課題がある。

【算 数】

- 示された場面を解釈し、答えの求め方や、その計算方法で求めることができる理由を式や言葉を用いて記述する力が身につけている。
- 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ったり、比例の関係にあることを用いて知りたい数量を求めたりする力が身につけている。
- 図形の意味や性質についての理解に課題がある。
- 百分率で表された割合についての理解に課題がある。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 読書が好きな児童が多い。
- 国語・算数の勉強を大切だと思っている児童が多い。
- 家庭学習の習慣が十分に身につけていない児童が多い。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・「シン東風スタイル」(「なかま：切り返しの発問後の交流活動」)の授業の実施(週1回以上)
- ・低学年担任や担外の教師の協力を得て、第3学年～第6学年の「A 数と計算」領域に重点を置いた習熟タイムの実施(学期に1回以上)
- ・ICT(Google Education アプリ、ミライシード)の活用

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえた研修や各学年における授業改善の推進
- ・様々な学習で、条件に合わせた作文やまとめを書くなど、自分の考えを書く活動の設定
- ・朝タイムにおける、国語科の言語領域(漢字・ことば)の習熟タイムの継続
- ・算数科における基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけさせるための習熟タイムの継続
- ・給食の準備時間における習熟タイムの設定(前期後半から算数、後期から漢字を追加していく)

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・読書量を増やすための読書通帳の取組(本の冊数やページ数の記録を3年間継続)
- ・国語科・算数科の授業において、自力解決や話し合い活動、まとめの自力作成の時間の確実な設定

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・家庭学習強化週間において、重点目標の結果や課題についての共有
- ・学力向上通信を通して家庭学習に関する内容の保護者への啓発